

マイスターだより

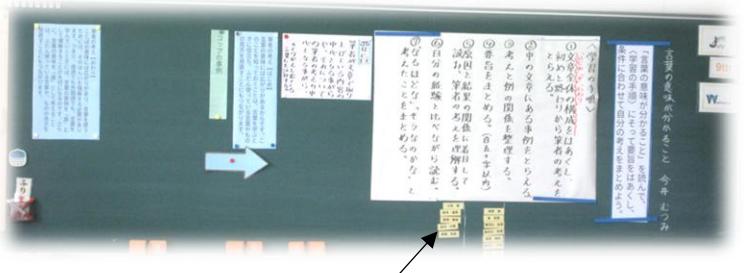
川西町立小松小学校
令和7年7月11日(金)
文責: 情野 夏美

先生の話す時間が少ない!?

先日、吉島小学校の校内授業研究会に参加させていただきました。山田先生の5年生国語科「文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう『見立てる』『言葉の意味が分かること』」の授業を参観しました。先生が話していた時間は5分もあったかなというくらい児童主体の授業でした。その他、様々な実践をされていたので、ご紹介したいと思います。

1、学習の見通しが持てる板書・掲示

「学習の手順」が掲示されており、昨日は何を学習して、今日は何を学習するのかが分かるようになっていました。また、児童のロイロノート内にあるふせんと同じものを黒板に貼っていました。（前時までに学習した内容が書かれてあるものでした。）ロイロノートで作ったふせんは、書きだして PDF ファイルに書き出し、印刷することができます。児童の「今日は何をするのですか。」がなくなるなと思いました。



2、単元内の自由進度学習

7時間扱いの単元ですが、3~6時間目は、「学習の手順」にしたがって、単元内自由進度学習を行っていました。また、児童の学習進度が分かるように名札を貼っていました。それを見て、児童は交流相手選び、自由に話をして、自分の学習を進めっていました。班で机をあわせていましたが、一人で黙々と学習する子もいれば、いろいろな班を自由に行き来して、解決に向けて学習する子と様々いました。自分達の力で課題を解決しようと、児童のいきいきしている姿が印象的でした。どの児童も45分間課題に向き合っていて、その集中力に感心しました。



3、児童の困り感を共有する

45分のほとんどの時間が、交流の時間でしたが、させっぱなしではなく、途中で教師がストップをかける場面がありました。一人の児童の困り感を全体で共有し、みんなで解決していました。困り感を共有することで、他の視点が加わり、学びがより深まるなど感じました。また、課題の意図からそれてしまった児童も、話を聞いて、軌道修正できるのではないかなと思いました。

4、全文シート

教科書がプリント一枚で分かれる全文シートを活用されていました。吉島小では、全学年で使っているそうです。（説明文や物語文にあります。まなビューア→T サポート→全文表示から出せます。挿絵もついています。）一枚で全文が見やすいので、必要な情報を探しやすくなっていました。ある児童は、練習教材で扱った「見立てる」という教材の全文シートを出してきて、「前にやった時は、こうだったから、今回はこうじゃない？」など、学習を進める上での手立てとして活用していました。それを見て、何人かの児童も全文シートを出し、ヒントにしていました。いい学びの連鎖が起きました。



5、ロイロノートの活用

自分の考えをロイロノートのふせんにどんどんと打ち込んでいて、慣れているなど感じました。ふせん機能の良さを活かし、先生から送ることも行っていました。児童は、使い方を理解していて、使いこなしていました。覚えてしまうと早いので、どんどん使ってみることが大事だなと感じました。

